道

michi

8

2023　No. 63

世界救世教　明主様と聖地に直結する会

世界人たれ

これからの人間は、世界人にならなければ駄目だ。これについて面白い話がある。終戦直後ある軍人上がりの人が私のところへ来て、憤懣に堪えない面持ちで「今度の降伏はどう考えても分からない、実に怪しからん」と言って、憤慨しながら話かけるのだが、私の方はサッパリ気が乗らないので、彼は呆れたらしく曰く「先生は日本人ですか」と質くから、即座に「私は日本人じゃない」と答えると、彼はギョッとして、震えながら「ではどこの国の人間ですか」と質き返えすので、私は言ってやった。「つまり世界人なんですよ」その言葉に、彼はポカンと気の抜けたような顔をして、その意味の納得のゆくまで説明してくれろと言うので、私もいろいろ話してやったが、いまそれを土台にして書いてみよう。(中略)

そのように自分の国さへよけりゃ、人の国などどうなってもいいというような思想がある限り、とうてい世界の平和は望めないのである。これを日本の国だけとして例えてみても分かる。ちょうど県と県との争いのようなものとしたら、日本内のことであるから、いわば兄弟同志の食み合いで、簡単に片がつくに決っている。この道理を世界的に押し拡げればいいのである。かの明治大帝の御製にある有名な〝四方の海みな同胞と思う世に、など波風の立ち騒ぐらむ〟すなわちこれである。みんなこの考えになれば、明日からでも世界平和は成立つのである。全人類が右のような広い気持ちになったとしたら、世界中どの国も内輪同志というわけで、戦争など起こりようわけがないではないか。この理によって今日でも何々主義、何々思想などといって、その仲間のグループを作り、他を仇のように思ったり、ヤレ国是だとか、何国魂とか、何々国家主義だとか、神国などといって、一人よがりの思想が、その国を過らせるのみか、世界平和の妨害ともなるのである。だからこの際少なくとも日本人全体は、今度の講和を記念として、世界人となり、いままでの小乗的考えを揚棄し、大乗的考えになることである。これが今後の世界における、最も進歩的思想であって、世界はこの種の人間を必要とするのである。話は違うが宗教などもそれと同じで、何々教だとか、何々宗、何々派などといって、派閥など作るのは、もはや時代遅れである。ところが自慢じゃないが本教である。本教が他の宗教に対して、触るるななどというケチな考えはいささかもない。かえって触るるのを喜ぶくらいである。というのは本教は全人類を融和させ、世界を一家のごとくする平和主義であるからで、この意味において、本教ではいかなる宗教でも、仲間同志と心得、お互いに手を携え、仲良く進もうとするのである。

(「栄光」124号　昭和26年10月3日)

染付草花文瓶　伊万里　江戸時代（17世紀初期）
重要文化財　ＭＯＡ美術館所蔵

有田の百間窯で一時期焼造された徳利で、胴を二条ずつの縦の線で堆線で八面に区切り、四面に樹木・蔓草・菊・草花の四種を上質の呉須（コバルト）で濃く表している。肩に装飾的な蓮弁飾りは中国の民時代中期の磁器に盛んに用いられている文様である。李朝染付や中国磁器の影響を受けながらも、独自の創意工夫が感じられる意匠である。呉須文様を絵付けしてその上から透明性の白釉をかけているが、素地はわずかに青みを帯びた白磁胎で、百間窯でも明時代や李朝の染付に負けない上質の染付磁器が焼造されたことを示している。肩に稜をつけ、高台を高くした本図の瓶の姿は、すっきりと均整がとれている。袖にふっくらとしたふくらみがあり、力感もある。この種の染付徳利には小振りのものが多いが、これは稀に見る大作である。

（ＭＯＡ美術館・箱根美術館　名作美術品カレンダーより）

《目　次》

代表挨拶……4
助師資格拝受者発表……10
感謝奉告①②……11
八月度聖地行事……16
感謝奉告③④⑤⑥……18
聖地ＮＯＷ……22
徳島信徒全体集会……23
ブラジル信徒の信仰体験談……23
シリーズ明主様（6）向上への努力……26
21世紀を生きる（10）……28
シリーズ《幸せの種まき》(2)……30

表紙の写真　神仙郷　改修後の山月庵

令和5年　課題

われよしの　心浄(きよ)めて　ひとよかれと
祈る心は　神に通へる

～明主様の示された「道」を求め、まっすぐ歩む～

代表挨拶

西村　正資

かわきたる　庭(にわ)のもも草力(くさちから)なく
向日葵(ひまわり)ひとり雄々(おお)しく咲(さ)ける

（昭和八年　明主様詠）

厳しい暑さの中、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

今年の梅雨末期には、数十年に一度や観測史上最大といわれる豪雨が各地を襲い、多くの災害が発生しました。被災された皆様には心よりお見舞いを申し上げます。

また、梅雨が明けた途端、世界のあらゆるところから熱波酷暑、そして山林火災のニュースが流れ、アメリカのデスバレーでは、56℃と過去最高気温が記録されたという報道がありました。

国連グテーレス事務総長は、七月二七日「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰の時代が到来」「恐ろしい事の始まりに過ぎない。ためらい、言い訳し、他人が動くのを待っていることは許されない」と警告を発しました。

霊界の深奥から大きくうごめく一大転換期、み教えにある〝火の洗礼〟を、つい連想してしまいます。

『神を力に誠を杖に進む身は世に怖るるものなきを知りけり』

八月一日、聖地祖霊大祭には、全国から多くの参拝者がありました。私は、ご先祖様方に、〝お力をお貸し下さい。私は何をしたら宜しいのでしょうか〟〝私は、明主様と聖地に直結する会と共に、みろくおおみかみ様、明主様に求め、今まで以上にみ教えに基づいた心言行の道を歩ませていただきます。どうぞお導き下さい〟と祈らずにはおれませんでした。

『世界救世教とは－明主様に倣いて』発刊について

包括法人世界救世教は、明主様のみ教えに求め、学び、そして日々実践できる教団づくりを目指して、この度『**世界救世教とは**』の、第二弾『**明主様に倣いて**』を発刊しました。

当会では、先月全信徒家庭にお届けさせていただきました。

信仰の営みには、自らの人格形成と教えを広めるという二面性があります。過去を振り返りますと、とかく一方に偏る傾向があり、表裏一体のバランスを欠き、結果、大きな問題を抱えることもありました。どちらに偏ることも健全な信仰向上の成就は困難となります。私たちは、そのような反省に立ち、明主様の御心を正しく理解し、霊体一致した向上を目指してまいりたいと願っています。

この度手にした『**明主様に倣いて**』は〝人生とは何か〟〝信仰とは何か〟〝幸福な人生を送るにはどうあれば良いか〟という問いに基づいて構成されたみ教え集です。

繰り返し拝読し、明主様の愛と祈りに触れ、そして生活行動の質を高め、心裕かな人生を送らせていただきましょう。

『道』七月号の感謝奉告より学ぶ

東大阪のMSさんは信仰三世で、物心つく前から、両親に手を引かれて聖地参拝をされていたようです。

そのようなご縁もあってか、「社会人になっても聖地参拝だけは欠かさず実践してきた」と、奉告されています。それも、単に参拝するということでなく、事前にみ教え拝読をされ、仕事の調整をされ、もっと明主様に近づきたい、美術館に行きたい。箱根神仙郷、平安郷にも鋸山にも行きたい等と努力されています。

私は〝信仰に慣れはとても怖い〟と常々感じています。そして〝感動〟が無くなるのは物事が見えなくなった姿なのだと自戒しています。Mさんは、あらゆることに新鮮に興味をもち続け、み教えを拝読しては好奇心を高め、そして関心ある一つ一つを参拝の目的にし、実際の聖地参拝を通して確認しているのです。心が求めだすと不思議なもので、気づきと感動が生まれるのですね。その感動に明主様が感応され〝もっと見せてやろう〟との思し召しではないかと思える程、通常では触れられないものや出入りできない所にも招かれています。

私は、昭和二七年六月二九日から三日間、箱根美術館開館お披露目に、各界の著名人を招かれた時のお写真を思い出しました。作家の川端康成、高見順、放送作家の徳川夢声、評論家の谷川徹三、薬師寺管主の高田好胤はじめ、そうそうたる多くの来賓を迎え、自ら

案内役を努められました。その喜びと情熱が溢れる明主様のお姿の記録です。

聖地でMさんを迎えられた明主様は、非常に嬉しく、力がお入りになられたのではないでしょうか。著名人、一信徒に関係なく、同じ思いを共有できるMSさんを、笑顔でお迎えになられたのではないかと思いました。Mさんの〝明主様の思いを知る〟ための入口が〝み教え拝読〟ということになっているようです。基本は〝み教え拝読〟、大切ですね。

この度、Mさんは教団資格を拝受されました。明主様の良いお弟子さんになられるのではないかと楽しみにしております。

阿南グループのCMさんです。明主様と聖地に直結する会に入会されて、間もない方です。ようこそお越し下さいました。

今は、集会の場所もなく、サポートして下さる方も身近に居ません。教費の納め方から一つ一つ問い合わせねばならない環境です。それでも、明主様の信仰を続けたいという方々が集まり、グループを作られました。よくぞ決断をされました。

私たちの信仰は、分かり易く言えば、明主様のお姿を模範として、自分の人生の質を高めることではないでしょうか。そのような観点で捉えれば、逆説的ですが教団混乱による私たちの厳しい環境は、明主様を求め見つめるには最高の環境ではないのかと感じています。

そこで気づくのは、長い信仰の中で、いつしか大切な家族を置き去りにし、教団施設のみを信仰の場とし、明主様にかかりつけ医のごとく依存し、信徒同士浄霊を取り次ぎ合い、感謝も希薄になるという、明主様の期待とはかけ離れた姿があったように思います。

今、信仰を支える物理的なものは無く、我や執着、プライドや言い訳等も通用するところはありません。明主様と自分しかないのですから、見失っていた尊い信仰に帰着できるはずです。

〝私の本物の弟子になりたいなら、永遠の幸せを得たいなら、ここで今一度信仰を基本から見つめ直し「純白の信仰」から始めてはどうですか〟と求められ〝信仰を今一度洗濯する〟そのチャンスを与えられたのではないでしょうか。

そうしたことを、み教えに求めて、周囲の方々と話し合われてみてはいかがでしょうか。

阿南グループのMSさんです。九年前、長男の浄化をきっかけに、故郷阿南に引っ越しをされました。毎日のご浄霊お取り次ぎで快方に向かわれましたが、それでも信仰姿勢は、祭典の玉串は仕方ないからする。

参拝にも行きたくないという状態であったと反省されています。

そのような中、今度は次男が救急車で搬送される出来事がありましたが、大事に至らず済ませていただくと共に、そのころから布教所への出入りをされるようになったそうです。

しかし、同年今度は自分が体調を崩し、検査で肝臓と卵巣にポリープ、子宮にも小さな筋腫があると診断されました。両親が徹底して浄霊を取り次がれました。

再検査の結果、二ヶ所のポリープは消え、子宮筋腫は、成長していないとの御守護でした。その頃思い出されたのが、過去事情があって赤ちゃんを断念されたことでした。慰霊祭を忘れていたので、布教所で調べたところ、何とその日が二〇年目の命日であったということでした。とても偶然とは思えません。

この度、先生から聖地直結の会の話しを聞く集会に、未信徒のご主人が「私も先生の話を聞きたい」と突然参加されました。過去一度も浄霊を取り次いだこともなく、入信を勧めたことも無いご主人が、話を聞いた後いきなり〝入信したい〟と表明され、周囲も大変驚かれたそうです。

この奉告を通して感じますのは、普段からご夫婦が、とても愛情が深く互いに信頼が厚かったのではないでしょうか。おそらくご主人は、信仰が良いものなのか、受け入れてはならない危険なものなのか。家庭内の夫人の言動や触れ合う信徒の姿を注意深くご覧になってきたことでしょう

私は、自分の人間性については、家族内が一番厳しく評価されると感じています。外部でどんなに緊張感をもって生活していても、大概の人は、家庭に戻った時に、緊張が緩むのです。家族にとっては緩んだ姿が本物の姿に写ります。ですから誤魔化しが出来ず、時間のルーズさ、不衛生、表の顔と家庭の顔の違い、不平不満や悪口、感情の表現、自己中心、等々、つい気の緩みで人間性が表れてしまうのです。家族には遠慮というものがありませんから、あからさまに評価されます。

信仰と人格向上は本来一体のはずです。人格が整い、それが生活のどこであれ、その言動に染み出ていなければ家族から良い評価を受けることはできません。MSさんは、信仰の基本に基づいてご両親に育てられ、み教えの拝読もずっと継続されています。意識しない中にも、教えの精神性や文化・気風が生活基準になっていたのではないでしょうか。

今後、お二人でみ教え**『明主様に倣いて』**を拝読され、大いに語り合っていただきたいと思います。そして、社会的にも〝MSさんご夫婦がなさっている信仰なら、信用できる〟と、多くの方から言っていただけ

るような〝明主様の信徒〟になっていただけたら嬉しいです。

藤枝グループMHさんです。聖地参拝でお花が沢山捧げられているのをご覧になり、帰ったら自分も身近な浄霊センターにお花の奉仕をさせていただこうと決意されました。お花を活け、毎朝6時に水の取り換えに参拝されています。

それを始めてから、生活のすべてがスムーズに運ぶようになり、主人との相互浄霊も許されるようになったと、嬉しく奉告されています。

聖地参拝され、明主様への日ごろの感謝やご報告、ご祈願等、もちろんですが、その中で湧きおこる奉仕への誠心〝お花を活けさせていただこう〟、このような尊い気づきは、守護霊様の働きかけもあるのではないでしょうか。ご先祖様も一緒にご奉仕されたいのではないですか。しかし、普段から〝なにかお役に立たせていただこう〟という心の構えがないと、見えない世界からの呼びかけも途切れてしまうことでしょう。また、MHさんは感じたらすぐに実行されています。こうした心掛けは、とても大切だと思います。時間を掛け、間が空いたりいろいろ考えたりすると不思議と行動力が落ちます。〝良いことは直ぐやる〟明主様はそれを『**利他的精神**』で教えられ、尊い『**誠**』なのだと教えられました。そうしたご奉仕は霊界も美しく整います。ですから生活が楽しくなり、家族の触れ合いも充実していくのではないでしょうか。〝周囲の方々に喜んでいただきたい〟そのような思いを大切に、これからも精進なさって下さい。

淡路グループNTさんです。一年以上前に目眩や頭痛、喘息、そして脳幹梗塞と診断されました。その後も肺気腫と診断される等、日々の生活は一変し、不自由なものとなったようです。

信者さんや世話人、先生からご浄霊をいただき、聖地へも祈願をお願いし、一年が過ぎようとした頃、お世話の方から「集会に参加して下さい。サポートするから」と誘われ、数回参加すると、今度は「浄霊訪問、一緒にさせていただきましょう」と誘われ、戸惑いながらもお役にたてればとご一緒されました。訪問先から「嬉しかった」と声を掛けられ、御用の喜びを感じ〝とにかく前を向いて進んでいこう〟と決意されています。

とても大切なことを経験されました。ご自分にも苦しさがある。でも、もっと厳しい中で過ごされている方のお役にたつと、人としての充実感やその方の笑顔や感謝に包まれる喜びが、お世話を受ける側の喜びの何倍も嬉しいものだと感じれて、体中に不思議な新しいエネルギーがみなぎってくるのです。NTさんの心

にも〃前を向いて〃との心の革命が起きたのです。こういう心が今後も満たされ続けていけば、必ずやご自身の健康も良い方向に向かうのではないでしょうか。

また、そんな頃、他宗教を信仰している同級生と電話する中で「免許更新の時、普段より視力が良くて合格できた。神様がついているから」と聞かされ、〃自分は長年、神様がついておられるとは感じたことが無かった〃と謙虚に反省され、これからは「大神様、明主様が自分のすぐ傍にいて見守っていて下さる〃〃明主様ならどう思われるかを常に考え、み教え拝読をさせていただきます〃」と決意を奉告されています。

〃学ぼう〃と心を構えれば、全ての触れ合いから学ぶことが見えてきます。頑張って継続されて下さい。

藤枝グループSMさんです。お届けさせていただいた**『明主様に倣いて』**のみ教えを学ばれての奉告です。早速拝読され、生活の中に活かされているようで、とても嬉しく思います。

『人を喜ばせることが好きで、ほとんど道楽のようになっている』とのみ教えを読まれ、自分の姿と心を見つめておられます。

自宅マンションお掃除のパートの方が、排水口掃除が苦手のようで、それを不満にもちつつ自分が掃除していました。そんな時、娘さんから「きっと素敵なご褒美をもらえるよ」と言われ、ハッとして不満ながらに掃除している自分が恥ずかしくなり〃明主様が見ていられる〃と心を正されたそうです。例え行為は善行であっても、心の不平不満は、次の不平不満を呼び込む〃くもり〃ですから、とても大切なことに気づかれました。

マンションの皆様は、恐らくSMさんの行為に感謝されていると思います。もちろん明主様も「よく頑張っていますね」とお褒め下さっていることと思います。

私たちは〃明主様から信用されること〃を目指し、どこにいても〃明主様の見守り〃を意識しています。

明主様は私たちが努力し成長している部分を認め、お褒め下さるでしょうか。それとも至らぬところを指摘されるでしょうか。所詮、人間誰しも至らぬところから始まっているのですから。SMさんは、先方の未熟さを変えようとせず、非難し責めている自分の未熟さを克服しようと努めています。素晴らしいです。

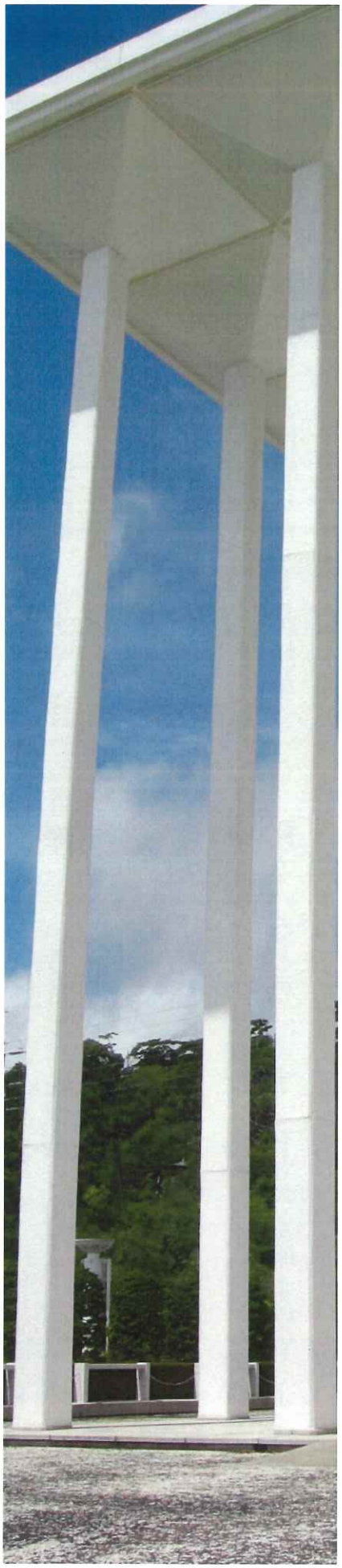
ここまで気づき努力されているのですから、あと一歩互いの幸せを祈り、パートの方を労い、優しく触れてみませんか。誰にも語れない心の苦しみがあるかもしれません。意外と今までと違うパートさんの一面を発見できるかもしれません。

触れ合う方は縁ある方。皆の幸福のため、明主様に祈りましょう。必ずや良いお応えを下さるものと信じます。

先月号では、六名の方から感謝奉告が寄せられ、お一人お一人が、み教え拝読やご自身の信仰体験を通して、しっかりした信念と行動を踏まえ、尚努力されているお姿に、大変嬉しく学ばせていただきました。ありがとうございました。

まだまだ記録的猛暑が続きそうです。お子様やお孫さんとアイスクリームを食べながら、巻末のイソップ物語を読み合って、ご自身の子ども時代の話しも織り交ぜ、楽しく愉快に〝人の道〟を語り合ってみてはいかがでしょうか。

皆様の、ご健勝とご活躍をお祈りいたします。



感謝奉告 ①

光に満ちた聖地参拝

土佐みろく教会　ＭＭ

地上天国祭における聖地参拝の感謝奉告をさせていただきます。

土佐みろく教会から聖地参拝のお誘いがありました。すぐに行かせていただこうと決意しました。常日頃から、聖地の素晴らしいお光を家族と共に共感できたらと考えていました。そのため、未信者の家族を聖地参拝に誘ってみました。そうすると、主人、娘、孫、私の家族四人で聖地参拝が許されることとなりました。

六月十四日、二歳の孫は高知空港に着くまで腹痛を訴え、ぐずっていました。しかし、強羅に向かうバスの中ではだんだんと機嫌が良くなり、「神様の所に行くが？」と言って嬉しそうに外の景色を楽しんでいました。強羅の駐車場に着くと、嬉しさを抑えきれないように小走りで、私と手をつないで奥津城まで歩いていきました。

言葉で表現するのは難しいのですが、神仙郷では光に満ちた素晴らしい時間を家族と共に共感でき、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

その後、初めて紫微宮で御参拝させていただきました。感動で胸が震えながら、建物を出るとき突然二日前に見た夢を思い出しました。夢の内容は、土佐みろく教会の所長に五年前に亡くなった父が「私も行っていいか？」と少し困ったように尋ねると、所長が「はい。いいですよ」と言ってくださり、そこで夢が覚めるというものでした。このことは父の感謝の思いが伝わったものかと納得しました。

いつもいたらない事ばかりの私ですが、土佐みろく教会の皆様のおかげでこのような感動をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

その後、熱海のホテルに移動しました。聖地でお光をいっぱい充電していただいた孫は、元気いっぱいで、ホテルで合流した所長の足にむぎゅっと抱きつき、だっこしていただきました。その様子を見た家族皆が、暖かい気持ちになりました。ありがとうございました。

六月十五日、地上天国祭当日は熱海の瑞雲郷でご参拝させていただきました。祭典が始まる時間までＭＯＡ美術館に行ったのですが、館内に入りエスカレーターで登って上を見上げると、ドーム型の天井に美しい色とりどりの模様が映し出されていました。まるでメルヘンの世界のような光景に、孫はすっかり魅了されてしまい「わぁーお魚、お花」と喜んでその場所から離れ

られなくなりました。そのため、家族皆でソファーに座り、しばらくメルヘンの世界を楽しみました。

その後、地上天国祭の祭典に出席させていただきました。孫はご浄霊をいただき、気もち良さそうに眠っていましたが、おかげで落ち着いて家族四人で地上天国祭に参拝させていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。

明主様、ありがとうございました

感謝奉告 ②

聖地直結の会入会後の私の御用

淡路グループ　ＹＭ

私は、八年前に腎臓癌の浄化で左の腎臓を敵出しました。あまりの激しい痛みで「明主様助けて」と自然に声が出ていました。それから、楽になった事を今でも覚えています。無い命を助けていただき生かされている事に感謝して、自分のできる事からお返しさせていただこうと思いました。日々の生活の中に、御用を優先に心掛けてきました。一ヶ月間の行事予定を見て浄霊訪問の計画を立てます。それから、一週間の計画を立てます。浄化されている信者さんや気になる方の訪問、機関誌『道』の配布や主人が色々なボランティア活動のお世話をしているので、私もお手伝いをさせていただくようになりました。

仕事の面では、年齢順で、淡路珠算協会の検定部長の大役がきました。コロナ禍での珠算検定試験施行や行事の規制と慣れない事で、戸惑うばかりでした。お蔭様で、各先生方や主人や子供達の協力で二年間の任期を果たす事ができました。

信仰の面では、世界救世教の二回の教団浄化で〝何のための信仰なのか？〟でも、子供の頃より信仰の中で育った私には、やはり大神様、明主様のご浄霊による数多くのご守護の奇蹟や御神書、自然農法、山月流の生け花、ＭＯＡ美術館や熱海、箱根、京都三聖地の聖地の素晴らしさに身魂が浄められます。

お世話させていただいている信者さんが、「自分対明主様でいく」と言われメシア教を脱会されました。淡路布教所の中では、信仰の仲間と話ができず、駐車場での立ち話や電話でお互いの思いを話し合いました。布教所は地域の聖地で、大神様、明主様に、ご面会してご報告、お光、お力をいただいてきました。先生やみんなと、一緒に笑顔で話し合える温かい布教所で参拝するのが楽しみでした。感謝祭、敬老会、ご生誕祭の行事には、皆で和気あいあいと楽しくお手伝いをさせ

ていただきました。世話人会の参拝の時は、先生にお世話している信者さん方の近況報告をして、ご指導をいただいておりましたが、以前と違うようになっていきました。

月次祭の時のアーメンの言葉で、自分の考えが決まりました。主人や子供達にメシア教の脱会の事を話しました。信仰をしているがために、悩み苦しみ、何のための信仰なのかと何度も姉夫婦に、アドバイスしてもらい、話し合って、布教所に行きました。先生に今までのお礼と、自分達の救世教に対する思いをお話して、脱会する事をお伝えさせていただきました。

聖地直結の会から先生が来て下さり、色々と話を聞く中で納得できるようになりました。私は、色々な事が重なり体調不良になり、主人や娘、姉に、ご浄霊をお願いしました。ご浄霊をいただき楽になりましたが、長引く浄化で、主人に「自己判断しないで、病院で正しい診察してもらってから次の事を考えなければ」と言われ病院に行きました。最初は、ストレスにより胃の炎症で、神経胃炎、その後は逆流性食道炎と診断され、食事がとれなくなりました。段々と体重も減り不安になってきました。免疫力が低下し、高熱が続きました。コロナの不安もありましたが、咳がなく、今まで食欲がなかったのに出てきた事に感謝しました。コロナ感染拡大の最中、ご浄霊のお願いができず自己浄霊をしていました。また、主人がご浄霊のお取次ぎや買物も引き受けてくれ、心強く感謝しました。夫婦入信の大切さや有難さを痛感しました。主人に心の中でありがとうございますと感謝しています。

浄化中の時に、中川先生にお願いしようと思い、早速、連絡させていただきご祈願と遠隔地浄霊をお願いし、ご神前にお玉串料をお供えさせていただきました。〝浄化は、大丈夫〟と囁いている声が聞こえたように思いました。私自身も大丈夫だと感じましたが、長引く浄化で、主人に風邪引きかコロナ感染か分からないので診察を勧められました。浄化でお世話になっており、診察のため、少し体調が良くなってから病院に行きました。先生に、「咳もなく食欲もあり夏風邪です」と伝えました。先生は、「風邪ひきのお薬を出します」と。断り切れずいただいてきました。微熱が続いているので主人に、「浄霊も大事だけれど薬も飲んで早く元気にならないか」と言われました。自分の意志ばかり通していてはいけないと思い、夜に薬を服用しました。すると夜中に、身体の異常を感じ薬の内容を確かめると副作用による症状でした。主人に、その事を話し、「私は薬が合わないから、これからはご浄霊だけで治療をしていきたい」と話しました。それから少しずつ回復していきました。その間、皆さんのご祈願、遠隔浄霊そして中川先生はじめ信者さん方に、ご浄霊訪問し

ていただき感謝で一杯でした。
昨年の神戸須磨集会所の開所式に参拝が許されず残念でした。参拝された信者さん方が笑顔で話してくれる様子で、私も早く参拝したい気持ちが強くなっていきました。
門埜先生、中川先生に、ご指導をいただき、以前の信仰の仲間と一緒に活動を始めました。お世話させていただいていた信者さんも聖地直結の会に繋がりました。浄霊訪問に行かせていただき、奥さんと一緒に、三人で相互浄霊をさせていただいています。我が家での集会にも参拝が許されるようになりました。私の体調も良くなり、神戸須磨集会所に参拝ができると思い、中川先生に連絡をとりました。中川先生のご厚意で車で参拝させていただきました。その日は、み教え拝読会でした。武田(伸)先生のお話の後に、一人一人み教え拝読をしました。先生は、拝読後に参拝者の近況を熱心に聞いて下さいました。神戸須磨集会所でのみ教え拝読会に参拝をして、お光の強さを感じました。続けて参拝させていただこうと思いました。参拝が許される度に、私は心身がすこぶる元気になってきているのを感じました。
神戸須磨集会所の参拝、淡路グループの集計、集会、予定が空いている日は、津名地区の集会にも、楽しく参加させていただいております。信者さん　未信者さんの浄霊訪問、機関誌『道』の配布、子供や孫達のご浄霊のお取次ぎをさせていただいています。
今は亡き妹の旦那さんが体調を崩して入院しました。検査入院中に病気が見つかり手術をしました。私たちのグループラインで中川先生や皆さんからの、ご祈願と遠隔浄霊や励ましのメールを本人や家族に転送しました。姉夫婦は週末に浄霊訪問して下さいます。協力して妹の旦那さんの浄霊訪問をさせていただいています。「ご祈願させていただきます」と、グループラインでの御用が許されるようになりました。各グループラインによるご祈願の内容は、孫の合格祈願、病気の事、両親の介護の事や子供達夫婦の問題、みんな色んな悩みを抱えておられます。悩みの時は、個人メールです。「神様に御礼を捧げてほしい」と、お玉串料を現金書留で郵送してきた友達もありました。コロナ禍の中での御用が許されていると思いました。聖地直結の会の信仰の仲間と、楽しく御用が許されている事に感謝で一杯です。
昨年のご生誕祭に主人と一緒に参拝が許され感動しました。〝聖地に帰ることができた〟と心から実感しました。終了後に、全国信徒集会にも参加しました。聖地参拝から帰宅後は、仕事の休み以外でも、家事がスムーズにいくからと浄霊訪問に出掛けました。
淡路に聖地直結の会が立ち上がる前から門埜先生の

運転の御用をされていたNさんのご浄化が、一年前から始まりました。私の近くなので浄霊訪問をさせていただきました。厳しい浄化で一人住まいで食事もとれない状態でした。私は、男性の一人住まいの方への訪問に戸惑いましたが、そんな事を言っている場合ではありません。主人に、Nさんに二週間毎日、浄霊訪問に通わせていただきたいとお願いしました。少しずつ回復してこられました。中川先生やKさんや東方之光に繋がっている姉夫婦や、信者さん方の、ご祈願と遠隔浄霊の取り組みで、起きておられる時間が多くなってきました。峠が越せたなと感じました。NさんやKさんも、我が家での集会に参拝が許されるようになりました。

門埜先生、中川先生から、助師資格のお話を聞かせていただきましたが、年齢や体力の事を考えると悩みました。でも、主人が背中を押してくれました。生前、母も助師資格者で姉夫婦も東方之光の助師資格の御用が許されています。不思議なご縁を感じました。水曜日の授業が済んで夕食後に、吐気と目眩が始まりました。中川先生に、ご祈願のメールをしました。先生がご浄霊訪問していただいた時に、「聖地で合格が決定された日に、御用にお使いただけるように綺麗にしていただいているのですよ」と話してくださいました。

中川先生、Nさんの浄霊訪問や淡路グループの信者さん方のご祈願と遠隔浄霊のお蔭で浄化中も授業を休む事なく、実母一七回忌法要や、夜に主人の喜寿お祝いの食事会、ホテルのスタッフの方からのサプライズで、私のバースデイケーキも用意して下さり、ダブルのお祝いに感動しました。素敵なお祝いに感謝です。法事と喜寿お祝い会も無事に終わりありがとうございました。大神様、明主様のお計らいに感謝で一杯です。

これからは、仕事や地域活動に積極的に参加して人に喜んでいただき、自分の行動を通じて、大神様、明主様の素晴らしさをお伝えできるような御用のスタイルを目標に、微力ですが、中川先生を中心に明るく楽しく心豊かに、みんなと一緒に淡路の輪が広がっていきますように、取り組ませていただきたいと思います。

大神様、明主様、ありがとうございました。

神業奉仕にさらなるご先祖の力添えを願う光輪祭

「人づくり」に、さらなるご先祖のお導きを祈る

北海道のメンバーから献上されたヒマワリに迎えられた参拝者

「明主様の人間観に基づく人づくり」「永遠の命―文明の創造に生きる」自分の殻を破り、周囲の人々の幸せの輪の中に案内させていただこうと祈る信徒。「永遠の生命の幸を作れかし此現世にありし間に」明主様の願いをお受けし、箱根熱海で共に奉唱されたお歌が魂に刻まれた。

「神幽現」信徒の感謝が真釣り合う祖霊大祭

「霊的孝養を尽くす」感謝の祈りが祝り上げられた

明主様の願い、先祖の願いに応えるべく誓いを新たにした祖霊大祭

一人ひとりが、自らの心言行を通して神様を顕していく。御経綸に叶う信仰建設。『世界救世教教義』のみ教えに基づき、明主様のご理想実現に向かって、明るく弛まず積極的に進んでいくことの重要性が確認され、信仰実践を誓う信徒の真摯な祈りと相俟った。

感謝奉告 ③

一歩踏み出す機会を与えられて

古賀集会所　ＨＴ

私は、令和五年五月に神戸須磨集会所で開催された研修会に参加が許されて、私なりに感じたこと、学びや気づきについて書かせていただきます。

私が最初にこの研修会参加のお話を先生からいただいた時は〝自分にふさわしいだろうか、まだ早い、なぜ？〟という不安な気持ちが先行していました。しかし、妻はすでに数年前の研修会に参加していて、また今回は、同じ集会所からＨ氏も参加を希望していました。そうしたこともあり、今振り返れば、私は多少の不安を感じながらも〝自然な流れでスムーズ〟に研修会へ参加することになっていたように感じます。

神戸須磨集会所は、砂浜・青いビーチ、潮風・磯の香りを感じることのできる場所に位置しています。

私とＨ氏は、強まる日差しに夏の訪れを感じ、コロコロというキャリーバッグの音に心湧き出る思いで集会所への道を目指しました。しかし、私たちの抱く不安も、集会所の玄関を開けた瞬間に、事務局の先生方や参加者の〝心からの笑顔〟ですぐに洗い流してくれました。

研修会は、入所参拝、ご浄霊、西村代表挨拶のあと、須磨海水浴場清掃奉仕作業となりました。砂浜を中心に、参加者全員で吸い殻やゴミを拾いました。炎天下の砂浜は、体感温度40℃以上に感じられ、日差しの強さと照り返しで汗は滝のように流れました。観光客の傍らで、黙々と奉仕作業をさせていただく一人一人の姿には、参加者の一体感が感じられました。

座談会では、参加者の入信動機や取り組み状況、信仰や浄霊への考え方など、様々な意見を交換することができました。ご浄霊一つとっても、感じ方や考え方に違いがあることに気づかされ、改めて目に見えない力(光)の素晴らしさを再認識することができました。この時の座談会の時間は、単なる時間の長短ではなく、言葉では表現できない時の流れの充実さを感じました。西村代表からは〝求める力〟～積極的に行動実践していく姿勢～が、今後もより求められると強調されました。神様は求めれば求めるだけの奇蹟や施しをくださる。まさに受け入れる側の我々の姿勢と気構え一つで変化する。求めていく姿勢があれば、何気ない日常にも、必ず〝気づき〟(発見)を与えられる。心の働きが研ぎ澄まされる。地上天国建設への基本的な考え方の一つであり、全ての事に当てはまることだと教えられ

ました。

また、座談会では、カ(過)・ゲン(現)・ミ(未)の大切さを学びました。今の自分が存在しうるのは〝先祖からの命を繋ぐ努力〟の賜物であることを決して忘れてはならない。自分の果たすべき責任はこれからの子供にバトンを繋いでいくことである。健富和に満たされたこの繋がりを、自分→家庭→社会へと広げ、地上天国建設を目指すことが大切だと教えられました。

この研修会での教えや学びや感じたことを忘れないようにしたいです。

研修会の参加者は、共に必要ある者として、同じ時間・場所で〝明主様の下(もと)に集められた一員〟と信じています。求められる存在だったからこそ何一つ弊害事象(天候、健康、仕事、事故など)なく〝自然な流れ〟で研修会に導かれ参加できたと思います。この奇蹟を心から感謝をしなくてはならないと思います。

私は今回の研修会参加に、明主様から確実に背中を押されたと思います。この明主様の思いを忘れず、今まで以上に〝心言行〟に磨きをかけていきたいと思います。

私は「救う側」へ一歩踏み出す機会を与えられたと思っています。今後も現世(うつしよ)における〝明主様の代理人〟の一員として、目の前に与えられた御用・救い(浄化)に背を向けずに真摯に実践していきたいと思います。

本当にありがとうございました。

感謝奉告 ④

広島に原爆が落ちた日の奇蹟

広島グループ　ＹＫ

いづのめ教団の『新生』に掲載されていた「苔の木箱」を読んで、三好トミヨさんが、祖父母の知り合いということを知りました。

倉敷市の大原教会に所属しておられ、三好さんが自宅を支部にしておられて、祖父母はそこに参拝していたそうです。

昭和二〇年八月六日のことです。祖父から聞いた話で、母が赤ちゃんの時のことです。

祖父が、弁当を持って仕事で八本松駅から広島に電車に乗って行こうとしたところでした。祖母がお弁当をつくっていた時に、母が火がついたように、泣きじゃくったため、とうとう予定していた電車に乗ることができませんでした。しかし、もしその時、その電車に乗っていたら原爆にあっていたのです。広島に原爆が落ちたのです。

日が経って祖父が広島市内へ出向くと、たくさんの火の玉が見えたとのことでした。
不思議な出来事が重なり、こうして我が家の今があるのです。

感謝奉告 ⑤

明主様の見守りに感謝

松山グループ　ＭＴ

グループのＡさんが、膝の手術をされて、入院中のご守護です。手術後の事です。隣の部屋に新たな患者さんがやってきました。大声でおらぶ(さけぶ)のです。Ａさんは身体が動かせないので、目を隣の部屋に向け、動く手で浄霊を始められました。五分ではダメで、七分経つと静かになりました。そして、三日経つと本当に静かになり安心されました。
リハビリのために転院されるその日のことです。退院した直後に、その病棟でコロナ感染者が出て、一日ずれていたら、退院できなかったのです。Ａさんが、「神様、明主様に護っていただきました」としみじみと言われました。担当の医者は「膝の手術をして、こんなに歩いている人はいないよ」と言われ、Ａさんはびっくりされました。聖地でご祈願していただいているので、報告してほしいとのことで、私が報告させていただきました。私も、その日にその場にいて、もしかしたら感染していたかもしれないので、ご守護いただいたと感謝しています。祖霊様の見護りもあったと思います。関係者皆、有難いなあと言っています。
明主様、大神様ありがとうございます。

感謝奉告 ⑥

私が求めていた信仰の姿

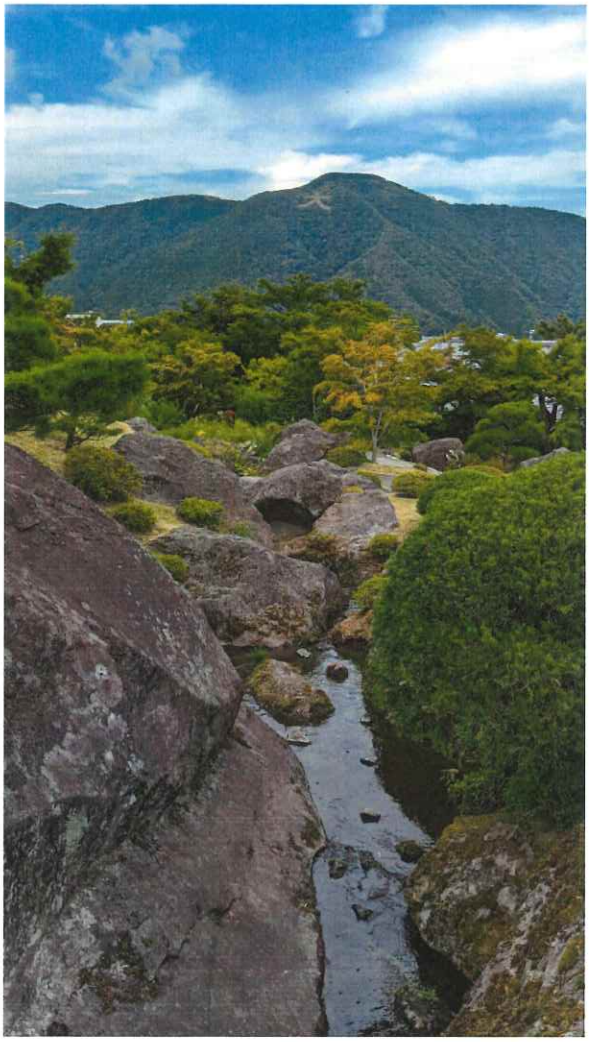
名古屋栄グループ　ＴＲ

私は、世界メシア教の信仰についていけず、今年になってから疎遠になっていました。体調もすぐれず、家の中にいることが多くなっていました。ＯＫさんから、和田先生が名古屋に帰っていらっしゃると聞いてはいたのですが、遠慮しておりました。
しかし、両足の具合がますますよくなく、外出もできず、家の中でも両杖をついて何とか身体が動かせるという状態でした。〝このまま寝たきりになるのではないか、これではいけない〟と思い、明主様におすが

りしたいと思いました。
ＯＫさんにお願いさせていただき、六月三〇日に和田先生にお越しいただきました。私は、和田先生が大好きで、六年振りにお会いしましたが、相変わらず、にこやかな先生のお姿にお会いできて嬉しく思いました。
先生の先達で三人一緒に天津祝詞を奏上させていただきました。早速、先生が浄霊をお取り次ぎくださいました。するとどうでしょう、全身に光がいきわたるのを感じ、身体がポカポカと温かくなり、足に血が流れていくのがわかりました。ご浄霊が終わりますと、驚くことに、両杖をついて、何とか身体を動かせる状態から、杖一つで身体を動かせるようになっていました。その後、先生とお話しをさせていただき、聖地直結の会への入会をお願いさせていただきました。
まさか世界救世教へ戻ることがでるとは、この上ない喜びです。
先生が帰られた後も、体調がどんどん良くなっていきまして、翌日、お世話になっている、かかりつけのお医者さんに診てもらいました。「近い将来、杖を必要としなくなるでしょう」と言われました。そして、「骨密度が四〇代まで回復しています」とのことで、医師から、「何故このようなことになったのですか」と大変驚かれました。八〇代の私も大変驚いています。
それから医師の言われた通り、杖を突かなくても歩けるようになり、七月一三日、そして一九日の名古屋栄グループの集まりに参加させていただくことができました。久しぶりに懐かしい信徒の皆さんにお会いすることができ、本当にありがたいことです。
七月末に、家先で尻もちをついてしまい、道行く人に助けてもらうことがありました。体調がすぐれなかったのですが、八月三日、和田先生とＯＫさんが来てくださり、ご浄霊のお取り次ぎをしてくださいました。この時も、ものすごいご浄霊でした。本当に身体が楽になりました。その夜もよく眠れました。ご浄霊の後、先生とお話しをさせていただいたのですが、家族のことや心配事を話しました。先生から、視点を変えてみませんかとお話しくださり、「心配に思えることに感謝」させていただくこと「〃自分が明主様を信じているのだから大丈夫〃との思いを大事にされてはいかがですか」とおっしゃってくださいました。ハッとさせられました。先生の言葉が身に染みて伝わってきました。尻もちをついたことで、このような気付きをいただいたのかとも思えました。
明主様の御導きご守護に感謝しかありません。ありがとうございます。

聖地NOW

三聖地 夏の風景と花の饗宴



明星ヶ岳を借景に神仙郷石楽園

日光殿 お池の蓮と百合

平安郷 オミナエシ

ミソギハギと春秋庵

稲妻階段前に咲くテッポウユリ

初の徳島信徒全体集会を開催

夏の太陽光線が燦々と降りそそぐ七月二三日、徳島集会所、鳴門グループ、阿南グループの信徒、総勢四六名が集い、ザ・グランドパレス徳島を会場にして、徳島信徒全体集会が開催されました。

参加された信徒は、笑顔、笑顔で溢れていました。久しぶりに、みんなに会って、懐かしさと喜び湧き上がる、そのような満面の笑顔がそこにはありました。

最初に遥拝。続いて、拠点ごとに参加者全員の名前を読み上げながら紹介。

そして西村代表の挨拶、質疑応答が行われました。参加者一人ひとりから思いを話していただき、代表に受け止めていただきました。予定されていた時間は、あっという間に過ぎ、大きなみ光に包まれながら、参加者夫々、新たなる決意を胸に、徳島信徒全体集会は賑々しく終了しました。

ブラジル信徒の信仰体験談

ご浄霊を徹底するという事

マウロ・セサル・ロドリゲス（男性52歳）

マウロ・セサルと申します。入信が許されて23年になります。

本日は、救世教の信仰実践を通して私に許された体験を、幾つか皆さんにお話ししたいと思います。

浄霊の力を信じて「おひかり」を拝受した私でしたが、それは他人が取り次ぐ浄霊であって、自分が取り次ぐものではありませんでした。私は「本当に自分の手から光が出ているのだろうか」と疑っていたのです。

しかし、それでも私は熱心にご浄霊を取り次ぎ、これまでも「必要があればどこでも」という姿勢で、教会内の様々な部署で御用をしてまいりました。

とある土曜日。初めて教会に来られた一人のご婦人にご浄霊をお取り次ぎさせていただきますと、「あなたの手から紫色の光が出ているのが見えた」と言って、たいそう驚かれたことがあります。「それは神様の御光ですよ」と答えながら、私はこの時ようやく自分がお取り次ぎする浄霊からも光が放たれていることを知ること

ができました。

また、その頃、中耳炎による激しい痛みと高熱に悩まされていた息子が徹夜でご浄霊を頂き、耳から膿を出した後はもう強い発作を起こさなくなったというご守護もございました。

二〇〇三年一二月二〇日、自宅に御神体の御奉斎が許され、それからちょうど三年後に娘が誕生しました。家庭の救いと向上のために神様が下さったプレゼントでした。

娘は「アイカルディ症候群」という先天性の難病（頻繁に痙攣を起こすことを主な特徴とし、その患者は歩くことも話すこともできないという病）を患っていました。担当医からは「痙攣を抑えるには、将来ホルモン投与が必要となります。また生きられてもせいぜい三歳までしょう」と告げられました。

それは家族にとって大きな試練でした。娘が痙攣を起こすたび、私たちはご浄霊と御教え拝読を徹底し、無我夢中で明主様にお縋りしました。そして、この試練に立ち向かうなかで私は、浄化には以下の三つの段階があることを学ばせていただきました。

・第一段階：理解する。「なぜか」を問うのではなく、「何のためか」を問う。明主様は何を意図しておられるのか、その御心を探る。

・第二段階：受け入れる。行動する。求道心とチャレンジ精神を持って、浄霊と御用奉仕を徹底する（一度娘に33時間連続でご浄霊を取り次いだことがあります）

・第三段階：感謝する。私はよく娘に言います。「お父さんの娘として生まれてきてくれてありがとう。これからも一緒にご奉仕していこう」と。

三年以上は生きられないといった医師の予測に反し、娘は薬を全く服用せず、浄霊と御用奉仕の実践だけで、一六歳を迎えることができました。

娘の看護にいつも協力的だった息子は、一部始終を側で見ながら多くを学んだようです。やがて御神業に生涯を捧げる決意をし、教団の専従者養成会（いわゆる研修課）に入会。後年専従資格者となりました。

大神様、明主様にお使いいただくには、更に浄まる必要があったのでしょう。研修生になる前、息子は喉の激しい痛みに悩まされ、固形物が喉を通らなくなり、話すこともできなくなりました。しかし家族や青年信徒の皆さんからたくさんご浄霊を頂き、およそ一五日間で回復することができました。

息子は急性虫垂炎を患ったこともあります。腹部に激しい痛みを抱えながら病院に行くと、早速入院するよう指示されましたが、センター長の助言を得て、私たちは彼を家に連れて帰り、自宅でご浄霊を徹底することとしました。

日中は青年信徒の方々が大勢浄霊訪問をしてくださり、夜から明け方にかけては、私と妻がご浄霊をお取り次ぎしました。こうした取り組みを一日も欠かさず続けた結果、息子は七日目に完治しました。また、息子はおたふく風邪にも罹りましたが、やはり浄霊を徹底したことにより一週間で治りました。

二〇一七年四月、助師の資格を許された私は、感謝の印として、当時銀行口座にあったお金を全て献金させていただきました。喜びと感謝、そして「もっと高いレベルでお仕えしたい」という気持ちが入り混じった、とても素晴らしい体験でした。

私の心は今感謝の気持ちでいっぱいです。これからも地上天国建設のお役に立つ立派な人間へと益々成長が許されるよう、常に精一杯の真心を込めて御用奉仕に邁進していきたいと思っております。

そして今、信仰を深めながら、教会で学んだ全て（以下の五項目）を家庭や職場でも生かすよう心がけています。

・尊敬の念と思いやりを持って人と接する。
・上司を立てるよう努める。
・真理に基づいたチームづくりをする。
・人の価値と限界を知る。
・行動で顧客の信頼を獲得する。

こうした考えを、今私は宗教臭さを出さずサラッと実践できるよう努めています。

朝起きるとまず私は、この命、そして家族が許されていることを明主様に感謝します。その後、家族全員にご浄霊を取り次ぎ、ご神前で祈ってから仕事に出かけます。また、仕事から帰った後も家族に尽くし、御教えを拝読した後、もう一度彼らにご浄霊を取り次ぎます。

大神様、明主様のおかげで、地上に天国を建設する使命を知ることができました。また、妻と共に御用奉仕に精進し、向上する機会が許されておりますことを、私たちの祖霊様に感謝いたします。私が自らの使命を果たせるよう、これまで私を指導し、支えてくださった全ての方々、そして私の家族には感謝の言葉も見つかりません。

一人でも多くの人を、この素晴らしい幸せの道へとお導きできるよう、これからも精進してまいります。

ありがとうございました。

シリーズ　明主様(6)　〝向上への努力〟

明治三五年（一九〇二年）から三八年（一九〇五年）にかけての数年間、教祖にとって、健康もしだいに快方に向かい、また両親や兄夫婦たちにも支えられた平穏な生活が続いた。このころ力を入れたのは読書を主とした勉学であった。

人一倍、向上心が強く、努力家だった教祖は、肺結核で不治の宣告を受けた時でさえ、けっして読書をやめることはなかった。小康を得てからは、ますます熱心に打ち込み、夜、床についてからも昼間読み残しの新聞、雑誌や図書を読むので、眠るのは家族の中でいつも一番遅かったという。また、手洗いの中まで書物を持っていき、読んでいた、と兄嫁の**すえ**は語っている。

教祖がもっとも愛読した書物は、財界人の立志伝である。そこから、先人の苦心や信条はどうであったのか、運命を開くもとになった着想はなんであったのかなどを個人の体験事実にそくして学びながら、きたるべき時の備えをしたのである。

教祖は明治三五年（一九〇二年）成人を迎えたが、おりしも世間では立志伝が大いにもてはやされた時代であった。明治維新以来、政府は新しい国造りを進めるため、人材の育成を重視し、国運を切り開く人物の登場を待ち望んだ。雑誌「成功」が発刊され、同じく雑誌「実業之日本」がとくに編集方針として、積極的に実業家の体験記や回顧録を毎号連載するようになったのもこのころである。これらを読んだ教祖は、「成功するような人たちはやっぱり違うなあ。」という感嘆の言葉が口癖であった。しかし、一般には立身の目的は、自己一身の幸福追求のためととられがちであったのに反し、教祖の場合、むしろそのことを通して多くの人々を幸せへ導くという、大乗的な理想に基づくものであった。これは教祖がそのころ、家族に、

「今に出世したならば、困っている人を助け、社会に迷惑をかける人をなくしたい。私はいつでもそのことが頭にあるんだ。」

と言っていたことによって知られるのである。

哲学の学び

教祖はさらに、西洋哲学の図書も数多く読んだ。なかでもとくに強い共感を覚え、高く評価しているのは、アンリ・ベルグソンの「直観の哲学」と、ウイリアム・ジェームズが主張した「プラグマチズム」である。

アンリ・ベルグソン（一八五九年～一九四一年）は、一九世紀の中ごろにパリに生まれたユダヤ系フランス人で、科学的知識を唯一絶対とする考え方に反対し、「生命の哲学」、「直観の哲学」を説いた。

教祖はベルグソンの哲学をきわめて簡潔に要約し、分か

りやすく教えている。そこではベルグソン哲学が日常の世界に引き寄せられ、生きる指針として示されているのである。後になって次のように記している。

「私は若い頃、当時もて囃されたフランスの哲学者、故アンリ・ベルグソン氏の学説に共鳴したことがある。その説たるや、今もなお思い出すことがよくあるとともに、信仰上からいっても裨益するところ大なるものがあるから、ここに書いてみるのである。

氏の哲学の中、その根幹をなしているものは万物流転、直感の説、刹那の吾の三つであろう。特に私の感銘を深くしたものは、直観の哲学で、氏の説によるとこうである。人間は物を観る場合、物そのものをいささかの狂いなく観ることは容易ではない。物の実体の把握はまことに困難である。これはなぜであるかということである。元来、人間は誰しも教育、伝統、慣習等種々の観念が綜合的に一つの棒のようになって潜在しているものであるが、それに気づくことはほとんどない。これがため、物を観る場合その棒が邪魔をする。（中略）

このように人間の陥りやすい過誤を訂正するのが、直観の哲学である。すなわち物を観る場合、棒に禍いせられない、虚心坦懐白紙の吾となるのである。それにはどうすればよいかというと、刹那の吾となるのである。すなわち物を観た一瞬、直感した印象こそ物そのものの実体を把握して誤りがない。」

（天国の礎　宗教下　二一頁　「直観の哲学」一部省略箇所あり）

プラグマチズムや、ベルグソンの「生命の哲学」など、教祖が学んだ哲学には一連の共通性がある。それは、どれも、単に知識の世界にとどまらず、思想や観念を我々の日常生活の上で実現して、人生を生き抜いていくうえでの生きた信念となって現実の結果を生むこと―つまり力となって発揮されるべきであるという考え方に深いかかわりをもつ哲学であるという点である。

教祖は先人の立志伝はもちろん、新聞の報道一つにしても、これを机上の空論に終わらせず、現実に根ざし、みずからの生活に生かすことのできるような実学を尊んだ。そのような学び方に徹した教祖であったから、哲学をひもとくにあたっても、抽象の世界に知的に遊んで、現実を離れ、生きた事実を忘れるということがなかった。そればかりか、思想・信念を生活に照らしてみて、その正邪、真偽を確かめ、生命の息吹きを伝える哲学こそ真の哲学なりとして学んだのであった。

（次号へ続く）『東方之光』（上巻）より

※文字数の関係で省略箇所があります。詳細は原典を参照下さい。

新連載『21世紀を生きる』（11）

「子どもの病気は食事で治す」②

高頭　和生

先月に続き、葉子クリニック院長の内山葉子先生著『子どもの病気は食事で治す』(株式会社評言社)を取り上げたいと思います。前回は、一九六八年以降広まった離乳時の常識が間違いであったこと、日本では未だ見直されていないことを知りました。私ごとですが、先月の執筆後、ふたりの娘の夫へ著書をプレゼントしました。長女は一歳と三歳の子供を育てており、次女は出産直後でした。食に関してはある程度の知識はもっていると思うのですが、各々の夫にも大切な情報は知っていてほしいと心から願ったからです。未だ育児書や子育て本などには、間違った情報が多く掲載されているようです。正しい情報を見極め、判断することが親の責任です。各々の家庭で、正しく生きるための情報を得ることが、これからの時代には大切なことだと思っています。

今回は、第三章の「アレルギーは食事で治す」の内容をご紹介します。近年、アレルギーの子供が急増しています。アレルギーはこれまで、遺伝的要因が大きいと考えられてきましたが、そればかりではなく、食習慣を含む生活環境が影響しているようです。

アレルギー反応には「即時型」と「遅延型」があります。

「即時型」(IgE抗体などで検査される)は、アレルギー源に触れたり、食したりすると数秒から数時間以内に症状が出るものです。一方「遅延型」(IgG抗体などで検査される)は、二四時間から数週間後に症状がでるもので、喘息やアトピー性皮膚炎は、この両者がかかわっているそうです。一般の病院で行うアレルギー検査は「即時型」で、牛乳、卵、ピーナッツ、そば、小麦、コメ、など疑わしいものを指定して検査します。しかし「遅延型」はあまり知られていないようです。病院のアレルギー検査では異常なく、症状が劇的に表れませんので解りづらいのです。アレルギーというより「食物不耐症」（その食べ物が体に向いていないこと）ととらえる方が理解しやすいようです。そして、特定の状況で免疫システムが過度に働き、IgG抗体などがつくられ、これが多くなりすぎると過敏反応が起こり、身体のあらゆる部分に炎症や症状が発生します。「即時型」と違って長く体内に存在し、アレルギー源と気づかずに摂り続けるため、長期的に体に悪い影響を及ぼすそうです。前号の冒頭で記した、発達障害やＡＤＨＤ、引きこもりなどの精神的な問題を抱える七〇人の子供たちの血

液検査したところ、すべての子供に、牛乳のカゼインによる「遅延型アレルギー」がありました。これは一例にすぎず、「遅延型」のアレルギー反応で、アトピー性皮膚炎や、自閉症、リュウマチなどの自己免疫疾患と関連していることは解っています。

この第三章には、「遅延型アレルギー」に特に多いのは、「卵」と「牛乳」だと書かれています。著者内山先生のクリニックの患者さんの例が幾つか書かれていますが、そのひとつに、「八歳の女児の場合は、冬になると乾燥肌と、鼻かぜを引きやすい傾向にありました。検査をする直前の冬は特にひどく、少し疲れやすいという症状が見られました。アレルギー反応があった食品を除去すると、四日で乾燥肌、かゆみ、鼻かぜは終止符を打ちました。その後、二週間ほどで、運動会の練習で走っても疲れなくなりました。」とあります。先生のクリニックで「遅延型アレルギー」検査を受けた人のうち、「卵」で八割、「牛乳」で七割の人に過度の反応が出ていたそうです。

アレルギー反応とは、一言でいうと「タンパク質への異常な免疫反応」です。そして「遅延型」は、各臓器に炎症を引き起こす原因になっているそうです。著者は、臓器の中でも腸の健康を保つ大切さを強く訴えています。アレルゲン源になるたんぱく質が、腸壁を透過し、血液中に移行してしまうことで、アレルギー性鼻炎や喘息に影響あるようです。「不必要なもの」「本来は血液中に入らないもの」は通さないことが大切です。腸を健康な状態に保つことの大切さがわかります。そして、妊娠中の母親の食事が血液を通して胎児に影響すること、また、三歳までの食べ物が大切だとも書かれています。アレルギー源になる可能性のあるたんぱく質が含まれる食材や腸に炎症を及ぼす可能性のある食材の過剰摂取に注意したいと思います。

健康のためには、小麦や添加物の使用されたお菓子や乳製品などの過剰摂取を避け、お米と季節の野菜を中心にした食生活を大切にすることを改めて確信することができました。

この連載は〝明主様を求める〟ひとつの切り口として紹介しています。会としてみ教え解釈の固定化を図る意図はありません。寛容にお読みいただければ幸いです。（編集者）

シリーズ　幸せの種まき　(2)　イソップ物語より

◎ウサギとカメ

人生、前へ進むだけでは息切れする

あるところに足の速いのが自慢のウサギがいました。ウサギはどんな場所へでも、ピョンピョン跳ねていってしまうので、周囲にかなう動物はおりません。

ある日、一匹のカメがウサギに向かって「ボクと競争しようよ」といってきました。

「キミ、本気かい？人一倍ノロマのくせして、ボクに勝てるとでも思ってるのかい？バカなことを考えるのはよしなよ」

「いや、実際に競争してみなければ、わからないよ」

「そうか、そこまでいうんだったら、受けて立とうじゃないか。ボクがいかに速いか思い知らせてやる」

こうしてウサギとカメのかけっこ競争がはじまったのですが、スタートするやいなや、ウサギはものすごいスピードで走りだしました。そしてゴール間近で、後ろを振り返ると、カメは遥か遠くでノロノロと歩いています。

「あー、バカらしい。これじゃあ、勝負にならない。一休みするか」

こう思ったウサギは道端に横になって一眠りすることにしました。しかし、それが勝敗の分かれ目になりました。

ウサギが眠っているあいだにカメはゆっくり進みながらも、ウサギを追い越し、とうとうゴールに到達。奇蹟の逆転勝利をおさめることができたのです。

《おしまい》

このお話は誰でも知っているお話ですね。

カメのように「まじめに努力を積み重ねていけば、いつか報われる時が来る」

ウサギのように「どんなに走る才能があっても、油断して、なまければ、努力する人には勝てない」といったことが書かれていますね。

最近の社会では「休日出勤してまでもガムシャラ働いて身体をこわしてダウンしては、それまでの努力も輝かしい未来もなくなってしまう」「カメのように、あせらずマイペースで無理なく進むことも大切だ」と「自分のできる範囲でコツコツと努力をすることも尊いことだ」と言われています。

あなたは、ウサギ型かカメ型か、どちらでしょうか。

世界救世教　明主様と聖地に直結する会
（聖地直結の会）
〒413-0006
熱海市桃山町26-1　救世会館１階
電話　0557　85　8060
FAX　0557　85　8185
seichicyokketsunokai@outlook.jp

No. 63 2023年8月15日発行

盆踊り